

2021年度 豊富小学校 校内研究について

4.16 研究主任

1 昨年度の研究の成果と課題

○成果 ▲課題

授業改善

- 自主学習のノートの掲示板があることで、自分なりに学習を進める児童が増えた。自分の苦手な学習を自主学習で練習したり、興味のあることを調べたりする児童が増え、児童が自ら学ぶ姿勢につながっていた。
- 先生方が日々の授業を大切にし、わかりやすい授業を心がけていた。授業に前向きに取り組む姿が見られるようになった。
- 授業の展開（自力解決から全体交流）を新たな視点で考え直すことができた。また、全体交流の進め方でも、一人で完結させるのではなく、何人かの発表でつくりあげる点もよい学びになった。
- OUの活用や豊富スタンダードで授業の改善を行うことで、落ち着いて学習に取り組むことができるようになってきた。また、発問の工夫を普段の授業でも意識することで、子どもが自主的に課題に取り組む姿も見られるようになった。
- ▲自主学習については取り組んでいるが、子どもがどのような姿になって欲しいのかの方向性がいまいだった。まずは基礎的な学力の定着に重点をおく必要があるのではないか。
- ▲児童同士の考えをつないだり、積み上げて行ったりする展開をすることが課題。

居心地の良い学級づくり

- O-Uを実施することで、学級のことや児童個人のことを把握することができ、クラスの課題も明確になり、その課題の解決に向けて取り組むことができた。
- 交流学級における温かい取り組みや居心地のよい学級づくりの実践のおかげで、支援学級在籍児童が、毎日元気に楽しく過ごすことができた。
- 居心地の良い学級づくりに関しては、多種多様な児童がいるなかで、一人で悩まず、悩みを共有できたり、アドバイスしあったりできたことが良かった。

今後の研究の方向性

教師アンケートから、**研究主題「自ら学びを深める児童の育成」を継続していくこと**について、時代に合った必要な研究であり、本校の児童の実態に合っているので、賛成という意見が多かった。このテーマで来年度も共通理解しながら進めていくことが良いのではないか。

研究内容については、**授業改善と居心地の良い学級づくりの継続**でよいという意見が多かった。学級経営を基盤とすることは、山梨県学校教育指導重点にも示されている大切なことである。授業改善については、**GIGAスクール構想も進んでいるので、ICTの効果的な活用も行っていくべき**である。来年度も、今必要なことは何なのかを考え、研究主題を実現できるように、全職員が関わって研究実践を進めていけるとよい。

2 主題設定の理由と研究主題

学校教育目標

心豊かに、かしこく、
たくましく生きる
子どもの育成

○めざす子ども像

(知) 進んで学び、
深く考える子ども

(徳) 感性豊かで、
思いやれる子ども

(体) 命を大切にし、
がんばれる子ども

山梨県の教育の動向

○学力向上
・授業力向上
(やまなしスタンダード)

○学校教育指導重点
情報活用能力の育成及び
「主体的・対話的で深い学び」
の視点からの授業改善に向け、
児童生徒用端末等の ICT を効果的に
活用すること

地域や家庭の様子

・地域の学校として、地域と学校の
結びつきが強い。

・学校への関心も高いが、他地域と
同様、仕事や日々の生活に追われ
る家庭も増えている。

新学習指導要領・文部科学省

○育成すべき資質・能力の3つの柱

- ・個別の知識技能
- ・思考力・判断力・表現力等
- ・学びに向かう力・人間性等

○主体的・対話的で深い学び

○GIGA スクール構想

Society 5.0 時代を生きる児童生徒
にふさわしい学びの実現のため、1人
1台端末と高速通信環境を整備

本校の児童の実態

*学力向上は喫緊の課題

- ・国語…言語についての知識・理解・技能
事実と考えを区別して書いたり、
理由を明確にして自分の考えをま
とめたりすること
- ・算数…理由を、根拠を明確にして書くこ
と。
数学的な考え方
などに課題がある。

(2019年全国学力学習状況調査より)

豊富小学校経営方針

○本年度の努力目標

- ・分かる授業、学び合い
のある授業の構築
- ・学習規律の育成
- ・見通しと振り返る学習
- ・ICT 機器の利活用
- ・個性を認め合う居心地
の良い学級づくり

昨年度

研究主題 自ら学びを深める児童の育成
～授業改善と居心地の良い学級づくりを通して～

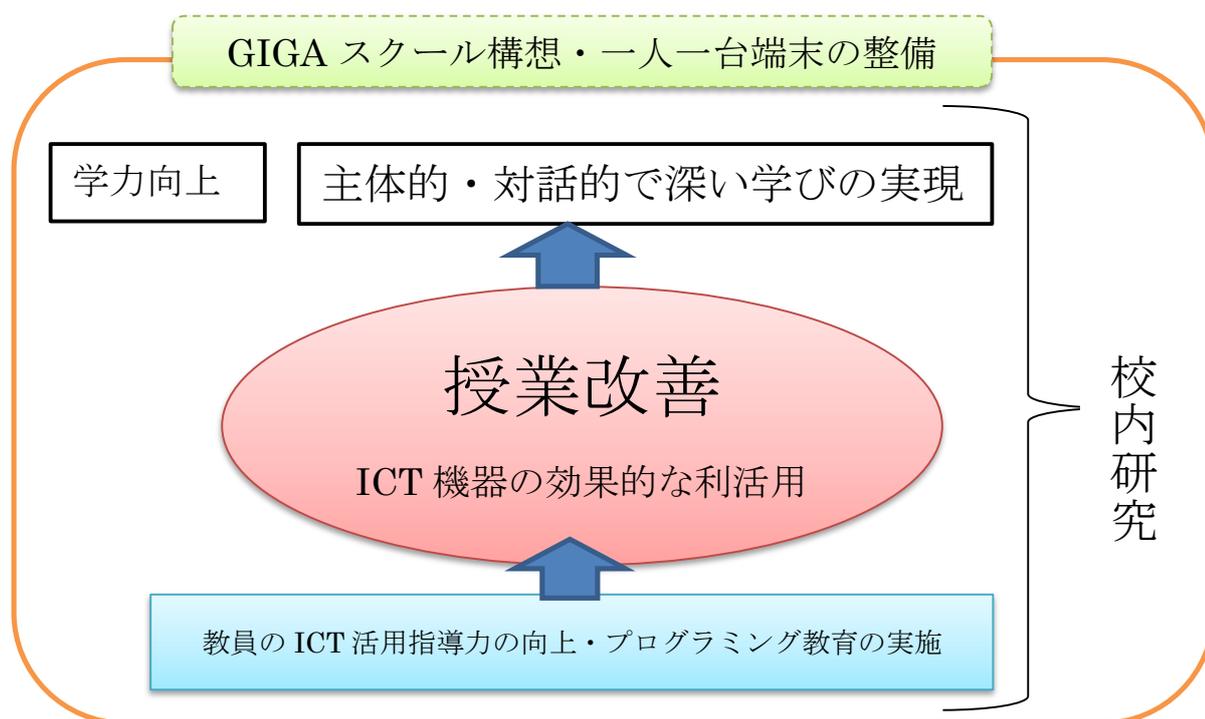
本年度

研究主題 自ら学びを深める児童の育成
～効果的に ICT 機器を活用した授業改善を通して～

3 研究目標

- ・ ICT 機器の効果的な利活用を通して、自ら学びを深める児童の育成に迫る。
(昨年度まで継続し、成果を積み上げている豊富スタンダードや居心地のよい学級づくりの取組については、踏襲していく。)

4 研究の構想図



今年度は、「学力向上」と「主体的・対話的で深い学びの実現」のため、「教員のICT活用指導力の向上」と「プログラミング教育の実施」を通して、『ICT機器の効果的な利活用を意識した授業改善』に取り組む。

5 研究内容と方法

(1) ICT 機器の効果的な利活用による授業改善

- ① 保有機器（学校・中巨摩教育会館等）、保管場所の確認。
- ② 購入したい機器や参考図書を選定。
- ③ 接続方法・操作方法の習得。基本的な機能の理解
- ④ 講師による研修会。（プログラミング教育を含む）
 - ・気軽に相談できる環境づくりのため、校内の先生が講師となって講義（実習）。
 - ・教育センター職員（情報教育グループ）による講義や情報提供。
 - ・山梨大学アドバイザーによる講義。
- ⑤ 全職員で ICT 機器を利用した授業の実施と交流。
 - ・「一斉学習」、「個別学習」、「協働学習」それぞれの学習場面において、ICT の効果的な活用方法を探る。
 - ・ICT 機器を活用した実践を発表し合う。
 - ・子どもたちも操作に慣れていく。（一人一台端末の導入）

- ⑥ プログラミング教育の実施。
 - ・単元で例示されているものは、授業で実施してみる（算数・理科など）。
- ⑦ ICT活用指導力の調査。（始めと終わり）

■学校経営方針より

○ICT機器の利活用に努める。

- ・問題解決的学習や体験学習活動を積極的に取り入れる。
- ・個に対応した一人1台PCの効果的な活用に取り組む。

(例) 課題解決学習として、算数教科書のデジタルコンテンツを活用する。

算数のデジタルコンテンツ（1～6年）では、

- ① 数学的活動の支援、
- ② 学習効果の向上、
- ③ 基礎・基本の定着、つまづきへの対応、
- ④ 統計、プログラミング教育

に分類され、児童が画面上で書き込んだり、動かしたり、練習したりでき、児童の主体的な課題解決が期待できる。

(例) 体験学習として、

- ① 普通の授業に書画カメラやタブレットの活用、
- ② 行事では、日産車体とのオンライン授業など を実施する。

(例) 発達段階に合わせたプログラミング教育を実施する。

アンラグド（コンピュータを使わないプログラミング学習）体験を通して遊びながらプログラミングの基礎を学ぶ効果が期待できる。（甲斐市竜王小1年生）

(例) 先進校の活用例（別紙）

(例) 文科省「教育の情報化の推進」,「教育の情報化に関する手引き」と（その追補版）の検索

(2) やまなしスタンダードを意識した授業改善 （継続）

※同様の資料が、高校、特別支援学校にも配付されています。

やまなしスタンダード

※同様の資料が、高校、特別支援学校にも配付されています。

●授業づくりの7つの視点

- ① 授業の始めに児童生徒に授業のめあて（目標）を示している。
- ② 話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れている。
- ③ 児童生徒は、他の人の話や発表に耳を傾けている。
- ④ 児童生徒は、ノートをとっている。
- ⑤ 活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにしている。
- ⑥ 授業や単元の終わりに、児童生徒がめあて（目標）を達成しているかを評価している。
- ⑦ 家庭学習（宿題や課題）と授業が、有機的に結びついている。



学習目標



目標提示①



授業の工夫・改善②～④



活用・探究⑤



評価⑥



学習習慣⑦

- ・やまなしスタンダードをふまえ、各自授業改善のめあてを決め、それに対する手立てを講じ、日常の授業改善を行う。

(計画→授業改善→評価→更なる改善の計画というP D C Aサイクルを意識する。)

(3) 豊富スタンダード (継続)

- ・やまなしスタンダードをもとに、本校のスタンダード (めあてやまとめ, 学習感想) の提示・声のものさし・話し方、聞き方などを統一し、同じ方向で指導に当たる。

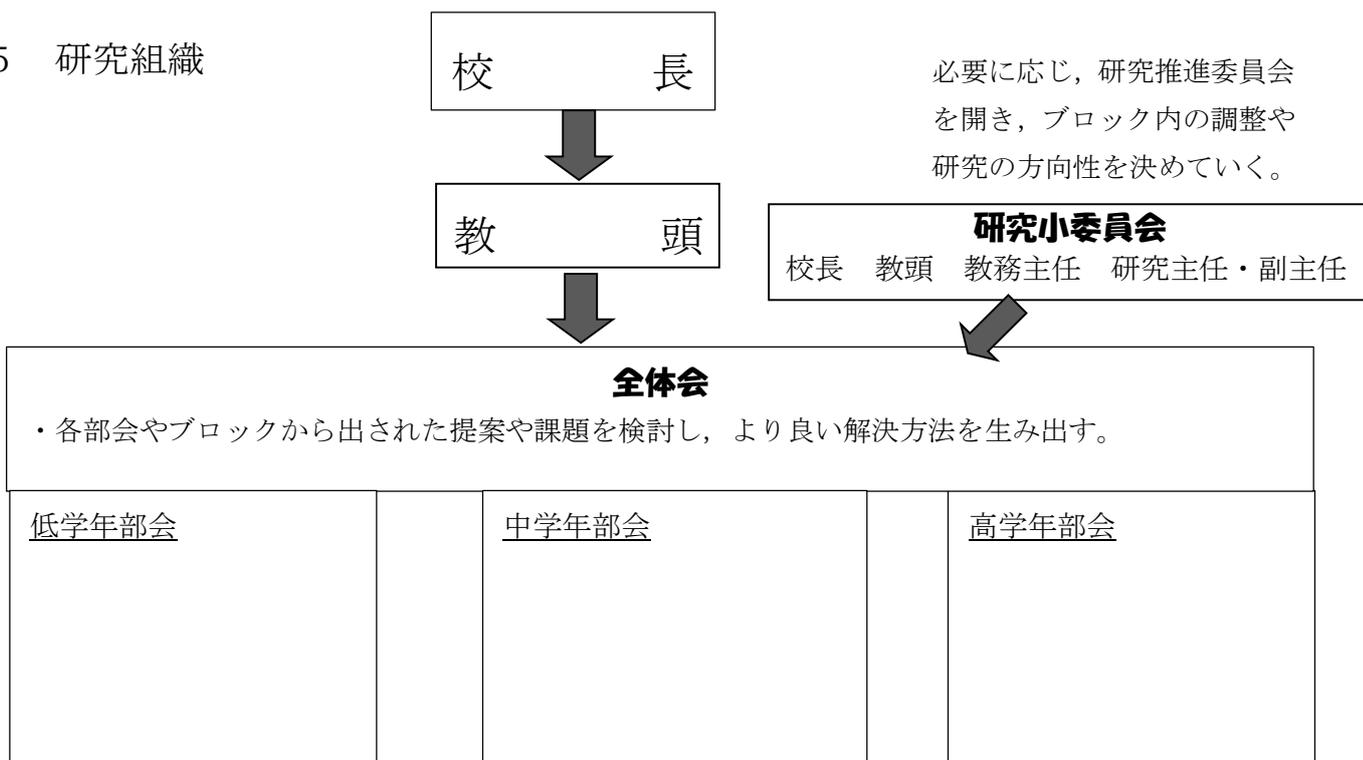
- ・Q-U 検査の実施 (5月～6月)。研究では、取り上げないが、結果をブロックごとに分析し、改善策を考える。

(単級の学校のため、クラスの悩みや改善策は、みんなで共有し、みんなで考えていく。)

(4) その他

- ・一人一実践の授業開示を行い、授業の反省を行う (学級担任・教務主任)。
都合をつけ、グループを超えて、できるだけ参観し合う。
- ・実践提案授業と研究会を行う。(一人一実践を兼ねる)
- ・授業開示及び実践提案授業の反省、参観者の意見、研究会で話し合われた内容等は、授業者がまとめて研究紀要に載せる。
- ・他校の研究会参加を推奨し、積極的に還流報告を行う。(校内研究の中で、もしくは回覧)
- ・研究に必要な教具・書籍・講師等については、校長・教頭・事務職員と相談しながら、講師の要請、予算の獲得、教材・教具の購入を行っていく。
- ・学校便りや学年便りで学校の取組を紹介していく。
- ・リモート会議。

5 研究組織



6 研究日程

回	研究日	形態	内 容	提案者	司会・記録
1	4月16日 (金)	全体会	今年度の研究について (研究主題・研究内容・研究組織・研究計画等)	研究主任	1年グループ
2	5月19日 (水)	全体 ブロック	ICT活用に関する学習会① (保有機器, 保管場所, 接続方法, 操作方法, 基本的機能の理解) ・実際に操作してみる ・一人一実践に向けての教材研究	研究主任	2年グループ
3	6月23日 (水)	全体会	ICT活用に関する学習会② ・実践提案授業(5年 算数)の評価 ・講義「ICTを効果的に活用した授業改善に向けて」 講師(指導主事を要請)	研究主任	3年グループ
4	7月14日 (水)	全体会 ブロック	ICT活用例の交流会①(1学期分) ・授業者より, 実践したものを簡単に発表。 (・Q-U検査の分析と対応策)	研究主任	4年グループ
5	8月20日 (金)	全体会	講習会(講義・実習) 「プログラミング教育の意義や情報提供」 講師(指導主事を要請)	授業者 研究主任	5年グループ
6	10月6日 (水)	全体会	講習会「プログラミングをやってみよう。」 講師()先生)	各担任 授業者	6年グループ
7	10月13日 (水)	ブロック	実践提案授業・一人一実践の授業案検討	各授業者	
8	11月17日 (水)	全体会	実践提案授業・全体会での検証 (学年 授業者) 講師(指導主事を要請)	授業者	1年グループ
9	12月15日 (水)	全体会	ICT活用例の交流会②(2学期分) ・一人一実践したものを発表し合う。	授業者	2年グループ
10	2月2日 (水)	全体会 ブロック	研究紀要について 各部(ブロック)の研究のまとめ	ブロック長 研究主任 各担任	3年グループ
11	2月16日 (水)	全体会	研究のまとめと来年度の方向性について	研究主任	4年グループ

※司会・記録は職員会議の順番の逆に回していく。提案者との兼ね合いで、変更をお願いすることもある。

※研究日以外にも必要に応じ各ブロックの活動を設定し、全体での研究が順調に進んでいくようにする。

※授業開示の日程については、教頭や研究主任と相談して調整し、重ならないようにする。

参考資料

主体的・対話的で深い学びについて（独立行政法人 教職員支援機構より…）

○ 新学習指導要領でめざす児童の姿とは？

- (1) 課題を持ち、主体的に学習する児童 → **学びに向かう力・人間性**
- (2) 知識を身に付け、
学習に生かしていく児童 → **知識・技能**
- (3) 友達と交流しながら、
考えを広げたり深めたりする児童 → **思考力・判断力・表現力**

学びに向かう力・人間性、**知識・技能**、**思考力・判断力・表現力**を育むためにどう学ぶか？

→**主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)**

■主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリアの形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動をふり返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか？

■対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考える等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか？

■深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えをもとに創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか？

主体的・対話的で深い学びが実現できているかは、子どもの実際の学びの姿を見ていかなければならない。

具体的にこのような児童の姿が授業の中で実現できればよい。

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める 	互いの考えを比較する 	思考して問い続ける 
見通しを持つ 	多様な情報を収集する 	知識・技能を習得する 
自分と結び付ける 	思考を表現に置き換える 	知識・技能を活用する 
粘り強く取り組む 	多様な手段で説明する 	自分の思いや考えと結び付ける 
振り返って次へつなげる 	先哲の考え方を手掛かりとする 	知識や技能を概念化する 
	共に考えを創り上げる 	自分の考えを形成する 
	協働して課題解決する 	新たなものを創り上げる 